

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

生成AIであらゆるビジネスが激変する

- 「スーパーインテリジェンスは数千日以内に誕生する可能性がある」。9月23日、米オープンAI創業者のサム・アルトマンCEOは、人類よりはるかに賢いAIの誕生時期について、自身のブログでこう予言した。「知性の時代」と題したこの投稿で、アルトマン氏は「AIは規模が拡大する、性能は高まり、世界中の人々の生活を改善する」と指摘した上で、「気候の改善や宇宙コロニーの建設、物理学の発見といった驚くような成果が、やがて当たり前になるだろう」と自身の見解を披露した。
- 米ボストンコンサルティンググループの予測によれば、生成AIの市場規模は年平均66%の急成長を続け、27年には1200億ドル規模に達するという。米アクセンチュアの調査によれば、日本の労働時間の44%は生成AIによって自動化、もしくは大幅に強化される可能性がある。高年収のホワイトカラー産業である証券や保険、銀行の金融業界は業務の約7割と、特に影響が大きいと予想されている。
- これほどインパクトがあるにもかかわらず、日本企業の生成AIの活用は進んでいない。帝国データバンクが今夏、約4700社を対象に調査したところ、生成AIを「活用している」と回答した企業は17.3%、「活用しておらず予定もない」は約半数を占めた。それらの理由として「AI運用の人材・ノウハウ不足」が5割を超えた。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2024年10月12・19日号)

ワンポイント経営アドバイス

博士不足でイノベーション停滞

平井 良典 (AGC・CEO)

- 「イノベーションを起こすためには、前例の無いことをすることに対する課題、設定、能力が重要。その能力をつけるには、博士号を取ることが非常に有効だ」。こう語るのは、素材大手AGCの平井良典・社長執行役員最高責任者(CEO)。2021年、同社として初の博士号を持つ社長となった。工学博士であり京都大学の客員教授を務める。博士人材の活用不足が日本経済停滞の要因だ。
- 平井氏はこう続ける。「高度経済成長期からバブルまでは、『欧米企業にどう追いつくか、追い越すか』という課題が見えていた。ただバブル崩壊後は課題が見えなくなり、みんな右往左往した。そして『失われた30年』に入ってしまった」。「世界初」のモノやサービスを生み出すイノベーションの実現には、博士の課題設定能力が生きる。そうした認識が日本企業に広がってこなかったのだ。

(参考:「日経ビジネス」2024年10月14日号)

海外事情

貧困を防止する法律が必要(ヨーロッパ)

マルクス・ガブリエル(哲学者、独ボン大学教授)

- 貧困をなくすには、制度でなく、貧困を禁止する法律が必要だ。貧困を生み出す企業が「罰せられる」と想像してみしてほしい。ヨーロッパでは、サプライチェーン法(サプライチェーンにおいて人権や環境基準が順守されていることの確認の義務づけ)が大きな議論になっている。この法律によって、企業の雇用状況をチェックでき、無責任な解雇を測定でき、直接的、あるいは間接的に貧困を減らすことに貢献できる。
- 貧困がどのように生じるのかを研究し、それを経済指標で測定し、貧困を生み出す原因になっている組織などへの刑罰を開発することは可能だ。つまり、貧困を引き起こした企業には廃業のリスクもある。もちろん、これにはきちんとした経済指標が必要だ。

(参考:「週刊東洋経済」2024年10月5日号)

古典に学ぶ

今という時間の大切に気づく

- 人の心は、常に過去や未来をさまよいます。「今」という瞬間には、なかなかいられないものです。空海はそんな状態を見て、次のように諫めています。
- 過去を振り返っても、暗くてその始まりを見ることはできない。未来を見ようとしても、漠然としている。だから、「今という瞬間の大切さ、今生きている自分の尊さに早く気づきなさい」と、空海は教えているのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)